

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191200023
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	さがケアセンターそよ風
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字坊所字大塚1523-53 (電話) 0952-55-6050

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年8月1日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成20年7月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	11 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 11.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての3階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	9,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	12 名	男性	5 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえきクリニック、東佐賀病院、新古賀病院、光風会病院、立山歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは上峰町のほぼ中心部に位置し、周りには民家やクリニック、商業施設等が点在している。2ユニットを有するホームは、3階建ての建物の3階にあり、1階にはデイサービス、2階にはショートステイを併設し、それぞれの機能を活かした連携が図られている。ホーム内には数か所に理念が明示されており、職員は、常に、理念に謳った「ここで介護」の実践に取組み、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしが継続できるように支援している。利用者の生活歴や力を活かした支援にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念づくりや災害対策、ユニフォームの使用等が課題となっていた。事業所や法人で速やかに検討を行い、できるところから改善がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。また、運営推進会議でも評価の実施について報告している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況や活動報告および今後の取組み等について話しあい、得られた意見や助言をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会で声をかけ、意見や苦情を聴くようにしている。また、玄関に意見箱を置いたり、重要事項説明書には相談・苦情受付窓口を明示している。家族からの意見等があった場合には、前向きに受け止め速やかに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人で自治会に加入しており、回覧板等も届けられ、地域の清掃活動や子ども110番の家等の地域活動に参加している。事業所の夏祭りや設立記念日の催し、勉強会等には地域の人達を招き交流を行っている。また、公民館での出前講座も実施している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスの役割を反映した事業所独自の理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には理念を伝えている。また、朝礼時に唱和をしたり、業務の中でも確認しあって、日々、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人で自治会に加入しており、回覧板等も届けられ地域の清掃活動やこども110番の家等の地域活動に参加している。事業所の夏祭りや設立記念日の催し、勉強会等には地域の人達を招き交流を行っている。また、公民館での出前講座も実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。前回の改善課題については、速やかに取り組み、できることから改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには行政や地域、同業者、利用者の家族等、多方面からの参加があり有意義な会議が行われている。会議ではホームの状況や活動報告および今後の取組み等について話し合い、得られた意見や助言をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、折に触れ、情報交換や課題解決のための相談をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の様子や健康状態については主に面会時に報告している。なお、請求書の送付時にはホーム便りや利用者の写真も添付している。金銭管理は各人ごとに出納を記録し、面会時や請求書の送付時に定期的に報告をしている。また、職員の異動についてもホーム便りに掲載したり、面会時等に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会で声をかけ、意見や苦情を聴くようにしている。また、ホームの玄関には意見箱を置いたり、重要事項説明書にも相談・苦情受付窓口を明示している。家族からの意見等があった場合には前向きに受け止め、速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	雇用条件を見直し離職防止に取り組んではいるが、設立後2年間に人事異動や退職により、管理者の交代が3回、介護計画作成担当者の交代が3回、常勤の職員交代が10回行われている。	○	グループホームの特性から利用者との馴染みの関係を重視し、異動や離職を最小限に抑えるための一層の努力や工夫を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設の施設間で委員会を設け、毎月勉強会を行っている。なお、医療連携機関等が実施する勉強会にも参加し、レベルアップに取り組んでいる。外部研修の受講者は会議等で報告し職員間での共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会や会議の折には他の事業所と情報交換を行っている。また、近隣の事業所とは利用者も交えた相互訪問を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験利用を通して徐々に馴染んでもらえるように工夫している。また、同じ建物内にあるデイサービスやショートステイの利用者が入居される場合には、雰囲気や職員に馴染みもあり安心して入居に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者の心の変化に関心を向けて喜怒哀楽を共有し、安心して暮らしになるように支援している。また、職員は利用者から昔からの生活習慣を学ぶ事ができ支えあう関係も築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室での検温時や個別にゆっくりと向きあえる時間に希望や思いを把握するようにしている。把握が困難な場合には、家族に訊ねたりこれまでの資料を参考にし本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いで出された希望や意向、および、職員等からの情報や意見を反映しながら、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて定期的見直しがなされている。	○	本人や家族等からの新たな要望や状況の変化がないようでも、毎月新鮮な目で見直し、介護計画書き換え以前に、本人、家族、関係者らが話し合う機会を作り、最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集めながらの見直しが更に充実されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的には家族の付き添いとしているが、家族等の状況に応じ柔軟に対応している。個別の特別な外出や衣替えのための自宅への外出等も支援している。また、入院時は、医療者側と相談し早期退院の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は以前からのかかりつけ医を受診されている。ホームはそれぞれのかかりつけ医と良好な関係にあり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を定めてはいるが、職員の交代等から全員が方針を共有しているとは言い難い。	○	職員全員が早急に対応方針を共有し、利用者や家族にとって更なる安心とつながるよう、事業所が対応しうる最大の支援方法を踏まえた方針の統一が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも「こころで介護」と謳われており、職員は、利用者を敬い笑顔でやさしく接している。また、記録の取り扱いや電話等の対応は個人情報の保護にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大体の流れはあるが、本人のペースとニーズを尊重した支援を行っている。お酒の好きな利用者には、家族からの差し入れを夕食時に楽しんでもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設からの給食で賄われており、利用者の食事作りへの関わりがみられない。なお、職員は利用者と同じテーブルにつき同じものを食べてはいる。	○	食事は利用者が長年関わってこられたものであり、食事作りの過程においても、利用者の力が発揮される場面作りを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯にかかわらず、本人の希望に応じ支援している。体調から入浴が無理な時には清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや掃除、洗濯物干しやたたみ、食器拭き、日々の献立の表示、手芸、読書、紙細工等、それぞれの利用者の生活や歴や趣味を活かして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲は散歩コースにも恵まれており、日常的に散歩に出かけ心身の活性化を図っている。また、利用者の希望に応じて、ドライブや買物にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設施設との見守りの連携もあり、日中は1階の玄関やホームの入口、階段、エレベーター等の鍵はかけられておらず、利用者の自由な暮らしが支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網や災害対策マニュアルを作成し、消火設備点検や避難訓練(夜間想定含む)が行われている。	○	ホームが建物の3階に位置していることから、職員だけの誘導には限界があることを具体的に想定し、近隣の人達の参加・協力を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは栄養士によって管理され、食事や水分の摂取量も日々記録し健康管理に活かされている。また、利用者の体調や機能に応じて食物の形状等にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間等には利用者と職員で作った季節感のある貼り絵や花、七夕飾り等が飾られている。日差しもカーテンで調整し不快な刺激にならないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、利用者が使い慣れた馴染みの品の持込を勧め、安心できる居室作りに取り組んでいる。寝具、テーブルや椅子、テレビ、時計、趣味の用具、鏡、化粧品、家族の写真、壁飾り、鉢物等があり個性的な部屋もみられる。家具やベッドの配置も本人や家族と相談し、使い勝手が良いように工夫している。		